

- ◆ 第六波ではオミクロン株による感染急拡大により、これまでにない規模の新規陽性者及び入院患者が発生
- ◆ 第六波の経験を踏まえ、医療提供体制のひっ迫を招いた主な課題を整理し、今後のさらなる感染拡大に備え、医療・療養体制及び病床確保に係る方針の見直しに加え、全病院での感染対策の備えについて検討
- ◆ 今後、この考え方をもとに、順次具体化を進めていく

<現状 (5/12時点) > ※府内全医療機関数511 ※受入医療機関数には大阪コロナ重症センターを含まず

確保病床数：約4,000床 (重症 622床、軽症中等症 3,375床)

受入医療機関数：210 (重点医療機関 169、協力医療機関 36、その他の医療機関 25) ※重点と協力は重複あり

(重症拠点病院 11、中等症・重症一体型病院① 22、中等症・重症一体型病院② 44、軽症中等症病院 133)

主な課題

見直し対応案

① 軽症中等症病床がひっ迫

今後の感染急拡大時に備えたさらなる病床確保を、受入医療機関に新たに要請【スライド2】

② 新型コロナ以外の原疾患（基礎疾患）を有する患者の割合が増加

要請済み [3/18付]

・非受入病院：自院患者が陽性となった場合、中等症 I まで自院での治療継続を要請

・受入医療機関：自院患者が陽性と判明した場合、自院で原疾患とあわせて治療継続を要請

全病院に対し、自院での感染管理病床の備えを依頼【スライド2】

③ 院内クラスター等による自院での患者が多数発生

④ 高齢の患者が増加

要介護高齢者に対応する医療施設・病床の整備を検討中

⑤ 「中等症・重症一体型病院②」の位置付け
院内で中等症病床から重症病床に移行する事例が少なく、重症病床の活用が不十分

医療機関分類について見直し・整理を実施【スライド3】

取組み③ 病床確保・医療機関での備えの充実—病床の確保及び各病院における備え—

- ◆ 第六波においては、確保病床を超える入院患者が発生したため、さらなる受入病床の確保が必要
- ◆ 今後、全ての医療機関にコロナ患者が一定割合発生することを想定し、他疾患（外傷含む）での入院患者を診療科を超えて受け入れる「**オール医療**」の体制構築が不可欠
- ◆ これまでコロナ治療の経験がない病院を支援するため、保健所圏域ごとの中核的な医療機関を中心とした支援ネットワーク体制の構築が必要

入院治療が必要な患者

① コロナの症状が重い患者（中等症Ⅱ以上など）／ コロナの治療を先行する必要がある患者

<例>

- 5/11第83回アドバイザリーボード資料より
 - ・ 陽性者数約22,000人/日の場合、入院率3%で約5,600人
 - 陽性者数約30,000人/日(第六波2倍)の場合
 - ・ 入院率2.2%(第六波最低入院率)で約6,600人
 - ・ 入院率3%(第六波平均入院率)で約9,000人
- ※ 仮に第六波最大と同程度の入院患者数4,000人としても、稼働率80%の場合は約5,000床必要となる

② コロナの症状は軽い（概ね中等症Ⅰまで）が、他疾患で入院が必要な患者（クラスターを除く）

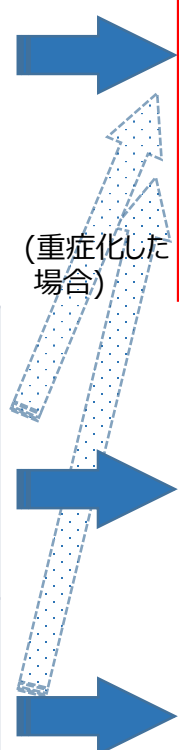
<例>

- ・ 府内全病院の新規入院者3,545人/日(R1病院報告)×10日×11.8%(1/31-2/27 無料検査陽性率)=約4,200人
- ・ 府内全病院の新規入院者3,545人/日(R1病院報告)×10日×14.1%(1/31-2/6、2/7-2/13 無料検査最高陽性率)=約5,000人

③ 医療機関関連クラスター患者

<例>

- ・ 陽性者数約20,000人/日×10日×0.8%(第六波陽性者に占める医療機関関連クラスター陽性者割合)=約1,600人
- ・ 陽性者数約30,000人/日×10日×0.8%(第六波陽性者に占める医療機関関連クラスター陽性者割合)=約2,400人



病床の確保・備え

受入医療機関確保病床

既確保病床

約4,000床

緊急避難的確保病床

- ・ 許可病床数(一般)に占める確保病床数の割合が平均(約10%)未満の病院に対し、病床ひっ迫時に、運用開始後一定期間に限り、平均程度まで確保病床の増床を要請

全病院

自院患者コロナ陽性病床の備え

- ・ 第六波における無料検査の陽性率程度、病院内でも陽性者が発生することを想定し、許可病床の10%程度を「自院患者コロナ陽性病床」（確保病床外で、感染管理がとれる病床）として備えていただくよう依頼
- ・ 受入医療機関については、ひっ迫時以外(フェーズ1,2)は上記確保病床内での対応も可

支援策等の整理（既存）

- ・ 設備等整備事業補助
- ・ 個人防護具等資材提供等（入手困難な場合等）
- ・ 空床補償
- ・ 消毒経費の補助
- ・ コロナ診療報酬
- ・ 感染症対策加算（重点／協力の場合）

- ・ 個人防護具等資材提供（入手困難な場合等）
- ・ クラスター空床補償
- ・ 空床補償
- ・ 消毒経費の補助
- ・ コロナ診療報酬

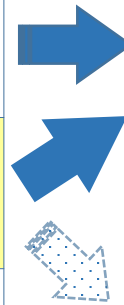
◎ 確保病床を有しない病院に対して、保健所圏域ごとに感染対策や治療にかかる支援体制の構築を進める

受入医療機関の病院機能分類の見直し

- ◆ 現在、円滑な入院調整を図るため、受入医療機関を「重症拠点病院」、「中等症・重症一体型病院①」、「中等症・重症一体型病院②」、「軽症中等症病院」に機能分化
- ◆ 第六波では、オミクロン株の特性から、院内で中等症病床から重症病床に移行する事例が少なく、その結果、中等症・重症一体型病院②の重症病床の活用が不十分だった（参考：重症化率 第四波3.2%、第五波1.0%、第六波0.13%）
- ◆ そこで、医療機能分化の基本的な考えは維持しつつ、分類について見直し、**中等症・重症一体型病院②を廃止**
（中等症・重症一体型病院①を「中等症・重症病院」に名称変更）
- ◆ 中等症・重症一体型病院②における重症病床については、外部からの重症患者を受け入れる病床（又は軽症中等症病床のいずれか）に位置付け

現 在

医療機関分類	重症※1	軽症中等症
重症拠点病院 (11機関 計234床)	◎ ECMO対応可 (234床)	△ 一部機関受入
中等症・重症 一体型病院① (22機関 計913床)	○ (241床)	○ 主に中等症 (672床)
中等症・重症 一体型病院② (44機関 計1,128床)	○ 院内重症化患者 (147床)	○ 主に中等症 (981床)
軽症中等症病院 (133機関 計1,722床)	—	◎ (1,722床)



見直し案

医療機関分類	重症※1	軽症中等症
重症拠点病院	◎ ECMO対応可	△ 一部機関受入
中等症・重症 病院	○※2	○ 主に中等症
軽症中等症病院	—	◎

※1 次のいずれかに該当する患者（人工呼吸管理をしている患者、ECMOを使用している患者、重症病床における集中治療室（ICU）に入室している患者）

※2 重症患者に加え、ひっ迫時には中等症患者を受け入れていただく、可変的な病床とすることを検討

<参考資料> 第五波と第六波における軽症入院患者の比較

- ◆ 軽症者の入院患者を第五波と第六波で比較すると、消化器科、循環器科、脳神経外科、産婦人科等、呼吸器科以外の診療科の疾患により、コロナ以外の緊急治療が優先される患者の割合は、第五波が7%、第六波は19%と増加した。
- ◆ コロナ陽性者でも、他疾患の緊急治療が必要な場合、コロナ確保病床やコロナ受入医療機関に限らず、全ての医療機関や診療科で対応が可能な医療体制が求められる。

● 軽症で新規入院した患者の内訳(元々基礎疾患で入院中の患者を除く)

	第五波	第六波	方向性
○ <u>他疾患の緊急治療が優先され入院対象となった患者</u> ・ 救急対応 (脳梗塞、心不全、吐下血、急性腹症、骨折、脱水等) ・ 他疾患等 (陣痛発来、脊髄損傷悪化等)	7% (18人)	19% (43人)	原疾患の 診療科で対応要 (コロナの症状が悪化した場合は コロナ確保病床へ)
○ <u>コロナの治療のため入院療養となった患者</u> ・ 呼吸苦、高熱持続 ・ (第5波) 抗体カクテル療法目的	41% (106人)	6% (13人)	コロナ 確保病床へ
○ <u>基礎疾患のリスク等を踏まえて入院となった患者</u> ・ 透析、妊婦、悪性疾患、精神疾患 ・ 高血圧、糖尿病等 ・ 小児科等	52% (135人)	75% (166人)	

※ 入院FCで調整した軽症入院患者のうち、自宅(高齢者施設を含む)・宿泊療養施設からの入院を集計。第五波:令和3年8月23日~29日(計259人)、第六波:令和4年2月1日~15日(計222人)。

<参考資料> 受入医療機関・確保病床等に関する他の都道府県の状況

都道府県	受入医療機関数 (a)	全病院数 (b)	受入医療機関割合 (a/b)	確保病床数 (c)	全病床数 (d)	確保病床割合 (c/d)	第六波中 (12/17-5/11)	
							日別最多陽性者数(e)	病床:陽性者 (c : e)
北海道	159	538	29.6%	2,147	91,035	2.4%	4,097	0.52 : 1
埼玉県	112	343	32.7%	1,827	62,914	2.9%	7,353	0.25 : 1
東京都	198	632	31.3%	7,229	125,396	5.8%	21,562	0.34 : 1
神奈川県	104	337	30.9%	2,100	73,800	2.8%	9,096	0.23 : 1
愛知県	84	318	26.4%	1,707	66,004	2.6%	6,661	0.26 : 1
福岡県	116	453	25.6%	1,304	81,917	1.6%	5,600	0.23 : 1
大阪府	210※	511	41.1%	3,997※	104,152	3.8%	15,617	0.26 : 1

【出典・時点】

- (a) 受入医療機関数 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策に係る各医療機関内の病床の確保状況・使用率等の報告 R4.4.20時点
 (b) 全病院数 厚生労働省 医療施設動態調査（令和4年2月末概数） R4.2.28時点
 (c) 確保病床数 新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査結果 R4.5.4時点
 (d) 全病床数 厚生労働省 医療施設動態調査（令和4年2月末概数） R4.2.28時点
 (e) 日別最多陽性者数 NHK「特設サイト新型コロナウイルス」 R4.5.12閲覧
 ※大阪府の(a)及び(c)のみR4.5.12時点